

南草津エリア  
まちづくり推進ビジョン  
(みなくさビジョン)  
素案

草津市

令和 年 月





# 目次

## 第1章 ビジョン策定の目的

1-1	ビジョン策定の背景と目的	2
1-2	ビジョンの位置付け	2
1-3	ビジョンの対象エリア	3
1-4	ビジョンの検討体制	4

## 第2章 南草津エリアの課題

2-1	南草津エリアの課題の抽出フロー	6
2-2	ワークショップの提言	7
2-3	南草津エリアの課題	11

## 第3章 将来像・基本方針

3-1	将来像	14
	1. 将来像	14
	2. 目標	14
3-2	基本方針	16
3-3	ゾーニング	18

## 第4章 施策

4-1	施策	22
4-2	施策の体系	28

## 第5章 ビジョンの実現に向けて

5-1	推進体制	32
5-2	ビジョンの見直しについて	33

# 参考

## 参考資料

---

参考1	ビジョン策定までの流れ……………	36
参考2	上位関連計画……………	40
参考3	南草津エリアの現況……………	46
参考4	社会情勢の変化……………	55
参考5	市民等の意向把握……………	56
参考6	大学関係者の意見……………	60



# 第1章

## ビジョン策定の目的

## 1-1 ビジョン策定の背景と目的

JR南草津駅周辺エリアは、駅開業や立命館大学びわこ・さつキャンパスの開学を契機に、市街化が進展し、多様な都市機能が集積し、多くの方々が交流する活力ある市街地として発展してきたところです。

一方で、人口増による交通渋滞の慢性化の解消が課題となっており、既存の地域資源等の活用が十分とは言えない状況です。さらに、滋賀県南部の玄関口となり得る可能性を秘めた草津田上ICや草津PAの周辺エリアの地理的優位性についても十分に生かし切れていない状況となっています。

そのため、従来の「駅周辺エリア」に限らず、その周辺の地域(志津南・矢倉・玉川・南笠東・老上・老上西学区)において、将来の人口減少局面を視野に入れた中で、活力や魅力をより一層高めていくため、今後のまちづくりの推進の方向性を定めるビジョンの策定が求められています。

なお、本ビジョンは10年後の令和12(2030)年度を目標年次として設定し、取り組むものとします。

## 1-2 ビジョンの位置付け

上位計画である「第6次草津市総合計画」および「草津市都市計画マスタープラン」と連携・整合を図りながら、将来像実現に向けた個別施策の展開として、草津駅周辺では「中心市街地活性化基本計画(第2期)」、市街化調整区域を中心とした郊外部では「草津市版地域再生計画」が策定されている中、本ビジョンはJR南草津駅およびその周辺である南草津エリアの計画を策定することにより、市内14学区全体をカバーすることにします。

また、市全域が対象である「草津市立地適正化計画」および「草津市地域公共交通網形成計画」は、「草津市版地域再生計画」とともにコンパクトシティの実現に向け連携・整合を図り策定されており、これらの計画や「草津市健幸都市基本計画」とも連携・整合を図ります。

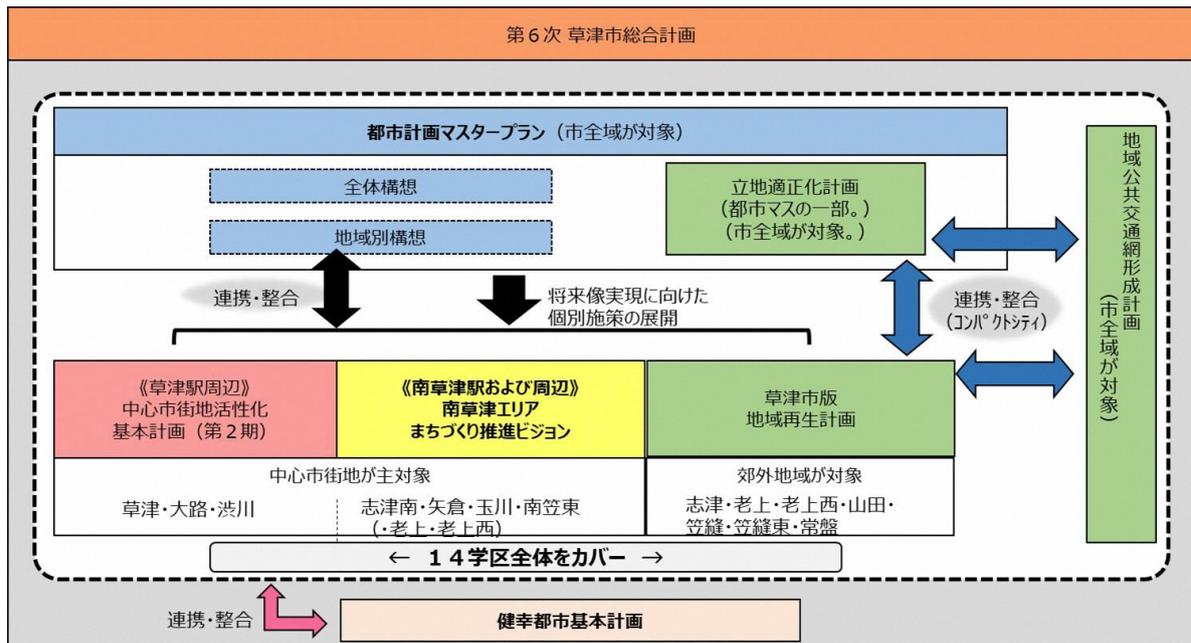


図 1-1 ビジョンの位置付け

## 1-3 ビジョンの対象エリア

本ビジョンは、JR南草津駅周辺とその周辺の地域も含めたエリア(矢倉、志津南、玉川、南笠東、老上、老上西学区)を「南草津エリア」と位置付け、対象エリアとします。

なお、JR草津駅周辺を対象とする「中心市街地活性化基本計画(第2期)」および市街化調整区域を中心とした郊外部を対象とする「草津市版地域再生計画」との連携・役割分担を図ります。



### 新規計画

南草津駅周辺とその周辺の地域を含めたエリア  
「南草津エリアまちづくり推進ビジョン  
(みなくさビジョン)」の策定  
(矢倉、志津南、玉川、南笠東、老上、老上西)

草津駅周辺  
「中心市街地活性化基本計画(第2期)」  
(草津、大路、渋川)

郊外部 「草津市版地域再生計画」  
まちづくりプラン策定済(常盤、山田)  
まちづくりプラン策定中(笠縫東、笠縫、志津)  
まちづくりプラン策定未定(老上、老上西)

図 1-2 ビジョンの対象エリア

## 1-4 ビジョンの検討体制

産学公民連携のプラットフォームであるアーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)を窓口として、地域住民の代表者、学識経験者、民間事業者の代表者、公募市民の各委員で構成する「南草津エリアまちづくり推進懇話会」(以下「懇話会」という。)を開催し、南草津エリアのまちづくりの推進について意見や助言等を踏まえた上で検討を進めました。

また、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)の関連事業である「都市と交通ワークショップ」や「草津パーキングエリアと連携したびわこ文化公園都市周辺地域の活性化に向けた研究会」との連携、大学関係職員・学生等の意見反映、市民に対するパブリックコメントを実施するとともに、草津市都市計画審議会からの助言や、策定が進められている草津市都市計画マスタープラン策定委員会との調整を踏まえた検討を進めました。

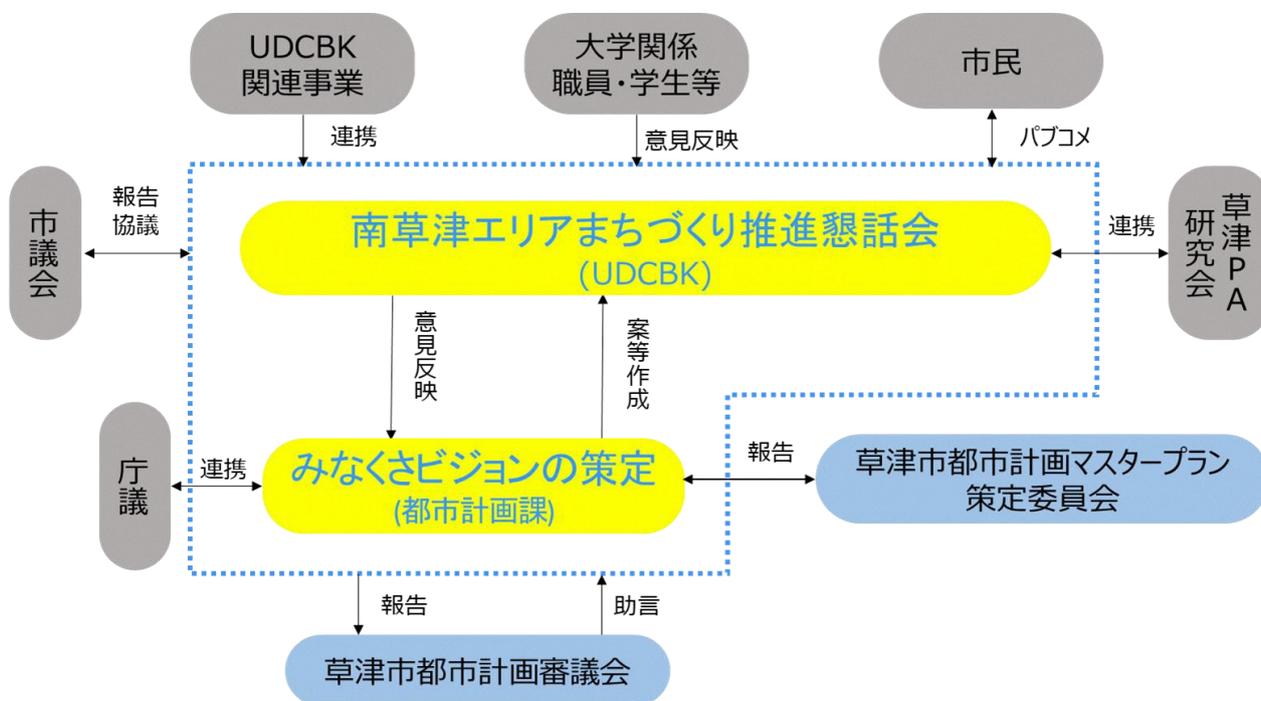


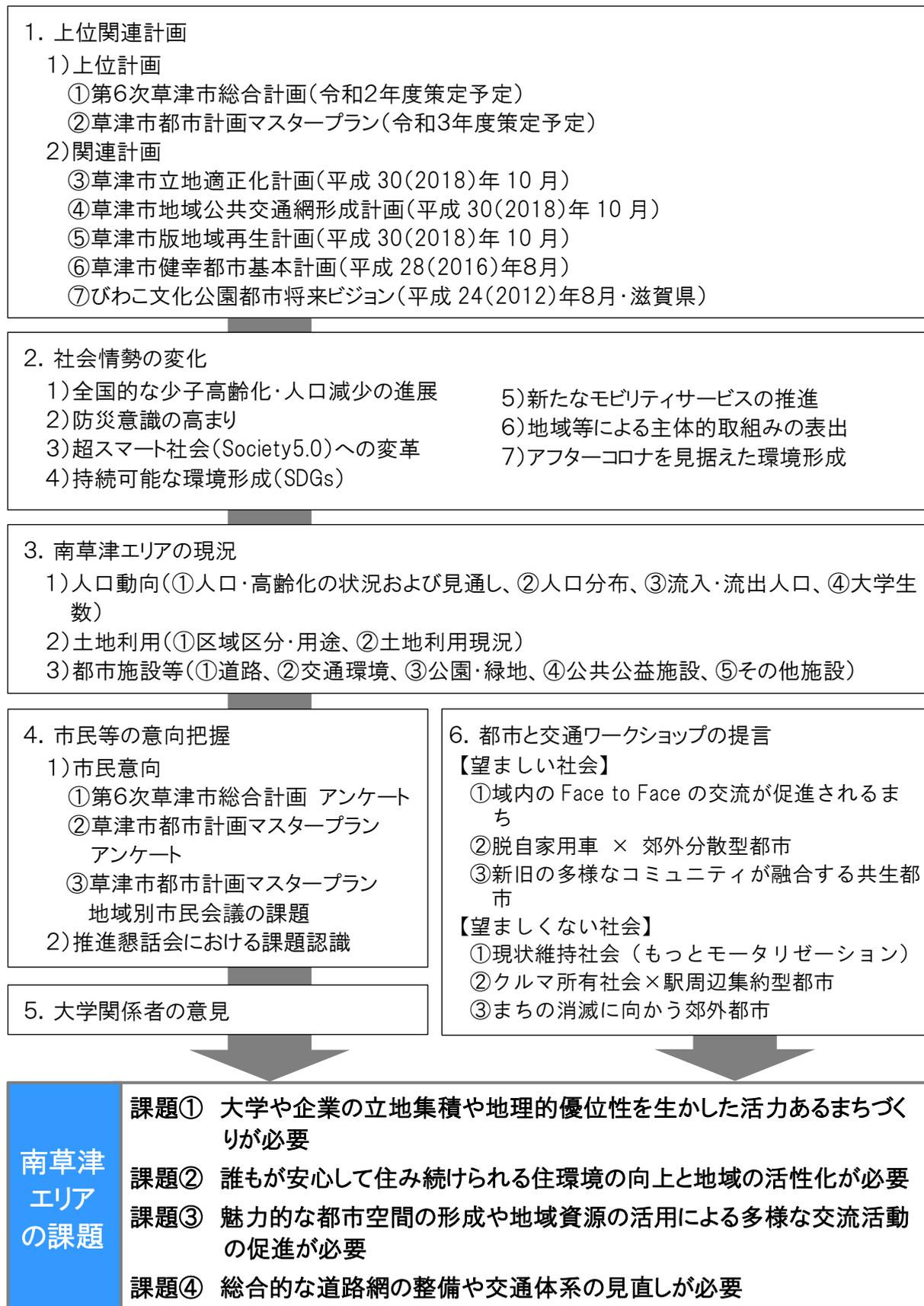
図 1-3 検討体制

## 第2章

### 南草津エリアの課題

## 2-1 南草津エリアの課題抽出フロー

上位関連計画や社会情勢の変化、南草津エリアの現況、市民等の意向、大学関係者の意見、都市と交通ワークショップの提言を踏まえ、南草津エリアの課題を整理しました。



## 2-2 ワークショップの提言

アーバンデザインセンター・びわこ・くさつ(UDCBK)では、「都市と交通ワークショップ」を計3回開催し、班ごとに3つの望ましい社会像が示されたことから、本ビジョンの検討においても参考としました。

なお、ワークショップの目的は以下の通りです。

- ・2040年の南草津駅周辺の将来像を複数のシナリオに描く。
- ・中でも望ましい都市空間と交通のあり方を議論する。
- ・将来の課題解決のためのアイデアを出し合う。

回	開催日時	内容	参加者数
第1回	令和2(2020)年8月21日(金) 18:00~20:00	未来の分かれ道に関する プレスト	28人
第2回	令和2(2020)年9月11日(金) 18:00~20:00	シナリオ分割とネーミング	
第3回	令和2(2020)年10月2日(金) 18:00~20:00	バックストーリーを考える	

なお、ワークショップのファシリテーターは立命館大学理工学部の先生方(武田史朗教授、塩見康博准教授、金度源准教授、阿部俊彦准教授)が務められました。

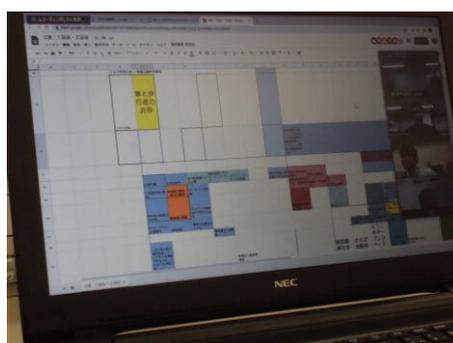


図 2-1 ワークショップ風景  
(WEB 開催)

図 2-2 ワークショップ成果①

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

参考資料

図 2-3 ワークショップ成果②

図 2-4 ワークショップ成果③

## 2-3 南草津エリアの課題

南草津エリアにおける課題を以下に示します。

### 課題①

#### 大学や企業等の集積や地理的優位性を生かした活力あるまちづくりが必要

- 南草津エリアの南部では「びわこ文化公園都市」の一部を形成し、草津田上ICや草津PAなどの広域道路ネットワークを有する滋賀県南部の玄関口として地理的優位性を有しているものの、これらを十分に生かし切れていない状況となっています。  
また、交通結節機能や交流機能を強化するとともに、幹線道路沿道や低未利用地などの土地利用、企業誘致などによる南草津エリアにおけるさらなる活力の創出が必要です。
- 「びわこ文化公園都市」を中心に、立命館大学や滋賀医科大学、龍谷大学が立地し、各種企業や医療・福祉施設も集積していることから、これら学術・研究・医療・福祉機関等の人材や技術、施設を生かし、南草津エリアのまちづくりや交流などの活性化につなげていくことが必要です。

### 課題②

#### 誰もが安心して住み続けられる住環境の向上と地域の活性化が必要

- 南草津エリアでは、今後20年間で約6,000人の人口増が見込まれるものの、その後は人口減少局面が到来することが予測されます。これら将来人口の予測や都市計画、社会基盤(ライフライン)のストック等と調整したうえで、計画的なまちづくりによる住宅地形成を検討しつつ、あわせて既存住宅地においては立地適正化計画に基づいた居住誘導による住環境の維持・向上を図っていく必要があります。
- 南草津エリアにおける防災対策の現状と全国的な防災意識の高まりを踏まえ、河川改修や避難所整備などの防災対策の強化や、広域防災拠点の形成などにより防災まちづくりを推進していくことが必要です。
- 少子高齢化が着実に進行するなか、南草津エリアに安心して住み続けるためには、地域住民とともに南草津エリアの特色である大学や企業などにおける様々な人材などとの連携により、地域コミュニティの維持や地域活動の活性化が必要です。

### 課題③

#### 魅力的な都市空間の形成や地域資源の活用による多様な交流活動の促進が必要

- JR南草津駅周辺には、商業機能のほか、市民交流プラザやアーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)、草津クリアホールなど、公共公益施設が集積しており、立地適正化計画に基づき、子育て支援施設や図書館、スポーツ施設、大規模商業施設、地域交流センター等のより一層の立地誘導を図っていくことが求められています。
- JR南草津駅周辺においては、南草津エリアの中心として市民や学生、従業者、来街者の交流・滞在を促す魅力のある空間づくりや、にぎわいや健康づくりに資する歩いて暮らせるまちづくりの推進に向け、歩行者や自転車など誰もが利用しやすい環境づくりが必要です。
- 各地域における交流や地域活動を促進するため、地域まちづくりセンター等の拠点機能や多世代交流機能の充実、草津川やロクハ公園、未整備都市公園、まちなかの休憩スポット等、水とみどりの環境を生かした憩いの交流空間の創出等が必要です。また、東海道や矢橋道、小野山遺跡、琵琶湖、田園環境などの地域資源を生かしたまちづくりや景観形成が必要です。

### 課題④

#### 総合的な道路網の整備や交通体系の見直しが必要

- 南草津エリアの南北軸として国道1号および京滋バイパス、山手幹線、大津湖南幹線がありますが、国道1号等の渋滞緩和策として、都市計画道路山手幹線等の代替ルートの整備の促進が必要です。
- 南北軸に対して東西軸の道路網が弱く、南北軸との接続部などでは交通渋滞が発生しています。平野南笠線や大江霊仙寺線などの未着手都市計画道路の早期事業化が必要です。
- JR南草津駅の乗降客数は、県内1位で1日当たり平均 60,000 人を超えており、駅周辺の交通渋滞の解消が課題となっています。これら交通渋滞の解消に加え、大学・企業等への通勤・通学での利用促進、高齢化の進展や低炭素化などの持続可能な環境形成への対応として、大学や交通関連機関と連携した公共交通の充実、新たなモビリティの検討など、快適かつ効率的な交通環境の形成が求められます。

## 第 3 章

# 将来像・基本方針

## 3-1 将来像・目標

### 1. 将来像

みなくさビジョンに掲げる南草津エリアの将来像を次のとおり定めます。

**あふれる活力と暮らしやすい環境が共生し、  
多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち「みなくさ」**

### 2. 目標

みなくさビジョンの将来像の実現に向けて目指すべきまちづくりの目標を以下に整理します。

目標

#### **1 大学・企業・地域の活力が持続的にあふれだすまち**

- 南草津エリアに関わる大学・企業が継続し、新たな企業進出等を促進することで、南草津エリアで学び・働く多様な機会が創出されるまちを目指します。
- 学術・研究・医療・福祉機関等の人材や技術、施設が地域活動に生かされ、活力を生み出していくまちを目指します。

目標

2

## 誰もが豊かな環境と利便性を享受し安全・安心に住み続けられるまち

- 防災対策の充実などにより安全・安心な住環境を形成し、南草津エリアに住まう誰もが将来にわたって地域で住み続けたいと思えるまちを目指します。
- 水と緑の環境や、歴史・文化資源等を保全・活用し、地域で質の高い暮らしが楽しめるまちを目指します。

目標

3

## 充実した都市空間・交通環境で多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち

- 充実した滞留・交流活動を展開する魅力的な都市空間を形成し、にぎわいのあるまちを目指します。
- 都市基盤の整備や公共交通の充実、歩いて暮らせるまちづくり、バリアフリー化の促進など、誰もが交流できる環境のまちを目指します。

第  
1  
章

第  
2  
章

第  
3  
章

第  
4  
章

第  
5  
章

参  
考  
資  
料

## 3-2 基本方針

南草津エリアのまちづくりを進めていくうえでの基本的な方針を以下に整理します。

### 活力

#### 基本方針①

#### 大学や企業等の立地集積を生かした産官学連携による魅力あるまちづくりの推進

- 大学の存在感を最大限に発揮してまちの新たな魅力や価値の創造につなげる「大学のあるまちづくり」の視点を織り込んだ取組を進め、南草津エリア全体にわたり大学生等が学び、集い、活躍し、地域に貢献するオフキャンパスとしての空間づくりに取り組みます。
- 草津田上 IC や草津 PA 周辺では、道路ネットワークが充実している地理的優位性を生かした土地活用や企業誘致、医療・福祉施設の集積を図ります。
- 大学や企業、医療・福祉施設などが立地集積する南草津エリアでは、その特徴を踏まえ、学術・研究・医療・福祉機関等の人材や技術、施設をまちづくりや地域の活性化に生かせるよう、産官学連携によるまちづくりに取り組みます。

### 住環境

#### 基本方針②

#### 豊かな地域資源を生かした安全で快適な住環境の形成と地域主体によるまちづくりの推進

- 南草津エリアの住環境の向上を図るとともに、立地適正化計画に基づく居住誘導と将来人口の動向を踏まえた計画的な住宅地形成を進めるなど、多世代に選ばれ住み続けられる住宅地づくりに取り組みます。また、地域防災計画に基づき、河川改修の促進や避難所整備などの地域の防災対策に継続的に取り組みます。
- 各地域の拠点となる地域まちづくりセンターとその周辺における都市機能集約を図ります。各地域においては、大学や企業などの人材と連携しつつ、地域主体による学生などの若者・子育て世代から高齢者、障がい者、外国人まで様々な人々が集い、交流し、支え合う体制づくりに取り組みます。
- 東海道や矢橋道、琵琶湖、小野山遺跡、農地等の田園環境などの南草津エリアに存在する地域資源を保全するとともに、憩いと交流に活用できる空間づくりに取り組みます。

## 基本方針③

JR南草津駅周辺やびわこ文化公園都市周辺における拠点性の強化と適切な都市機能の配置の推進

- 草津市立地適正化計画に基づき、JR南草津駅周辺においては子育て支援施設や図書館、スポーツ施設、大規模商業施設、地域交流センターなど都市機能の誘導を図るとともに、既存施設の機能強化やにぎわい創出に向けた活用促進を図ります。南草津エリアの中心として、交流・滞在を促す魅力のある空間づくりを図るとともに、にぎわいや健康づくりに資するウォーカブルなまちづくりの推進に向け、歩行者や自転車における安全性の確保や利便性の向上、バリアフリー化の推進、公共交通の充実、歩いて楽しい空間づくりなど、誰もが利用しやすい環境づくりに取り組みます。
- 市、県および関係機関で構成する「草津PAをはじめとするびわこ文化公園都市周辺エリアの活性化に向けた研究会」での議論を踏まえ、滋賀県南部の玄関口として位置付けられるエリアにおける交通結節機能の強化、にぎわいの創出、広域防災拠点形成を図ります。
- JR南草津駅周辺における交通渋滞の緩和や南草津エリア内の安全性・利便性の向上を図るため、南草津エリア内を結ぶ道路環境の整備と、公共交通機関や地域と連携した公共交通機能の充実に取り組みます。また、南草津エリアの将来人口の動向や将来都市構造を見据え、公園等の都市施設やその他公共施設の整備・再編に取り組みます。

### 3-3 ゾーニング

南草津エリアにおいては、「JR南草津駅周辺のにぎわい形成(中心拠点)」、「学術・研究複合連携(東の拠点)」、「琵琶湖辺自然・文化振興(西の拠点)」の3つの拠点を位置付け、重点的に施策を展開していきます。また、各学区では「地域まちづくりセンターを中心とした地域活性化」を図るとともに、「エリア内の連携を強化、広域からの交流促進」を図るための施策を展開していきます。

#### 中心 拠点

##### JR南草津駅周辺のにぎわい形成

乗降客数が県内一位であるJR南草津駅を有し、さまざまな都市機能が集約するJR南草津駅周辺地域を含む地域を中心拠点と位置付けます。

#### 地域 活性化

##### 地域まちづくりセンターを中心とした地域活性化

豊かな水と緑に囲まれた田園環境や住環境を生かし、各学区の地域まちづくりセンターを中心に地域が主体となって多様な交流による活性化と安全・安心なまちづくりを促進する拠点と位置付けます。

#### 東の 拠点

##### 学術・研究複合連携

名神・新名神高速道路が通る交通の要衝であり、びわこ文化公園都市として、立命館大学をはじめとした産学の集積がみられる地域を東の拠点と位置付けます。

#### 連携 交流

##### エリア内の連携強化、 広域からの交流促進

エリア内の拠点間や各学区との連携を強化するとともに、広域的な交流促進に資する、「ひと」「もの」「こと」をつなぐ持続的なネットワークづくりに取り組みます。

#### 西の 拠点

##### 琵琶湖辺自然・文化振興

琵琶湖を背景とした自然や田園風景、歴史・文化が残る地域を西の拠点と位置付けます。

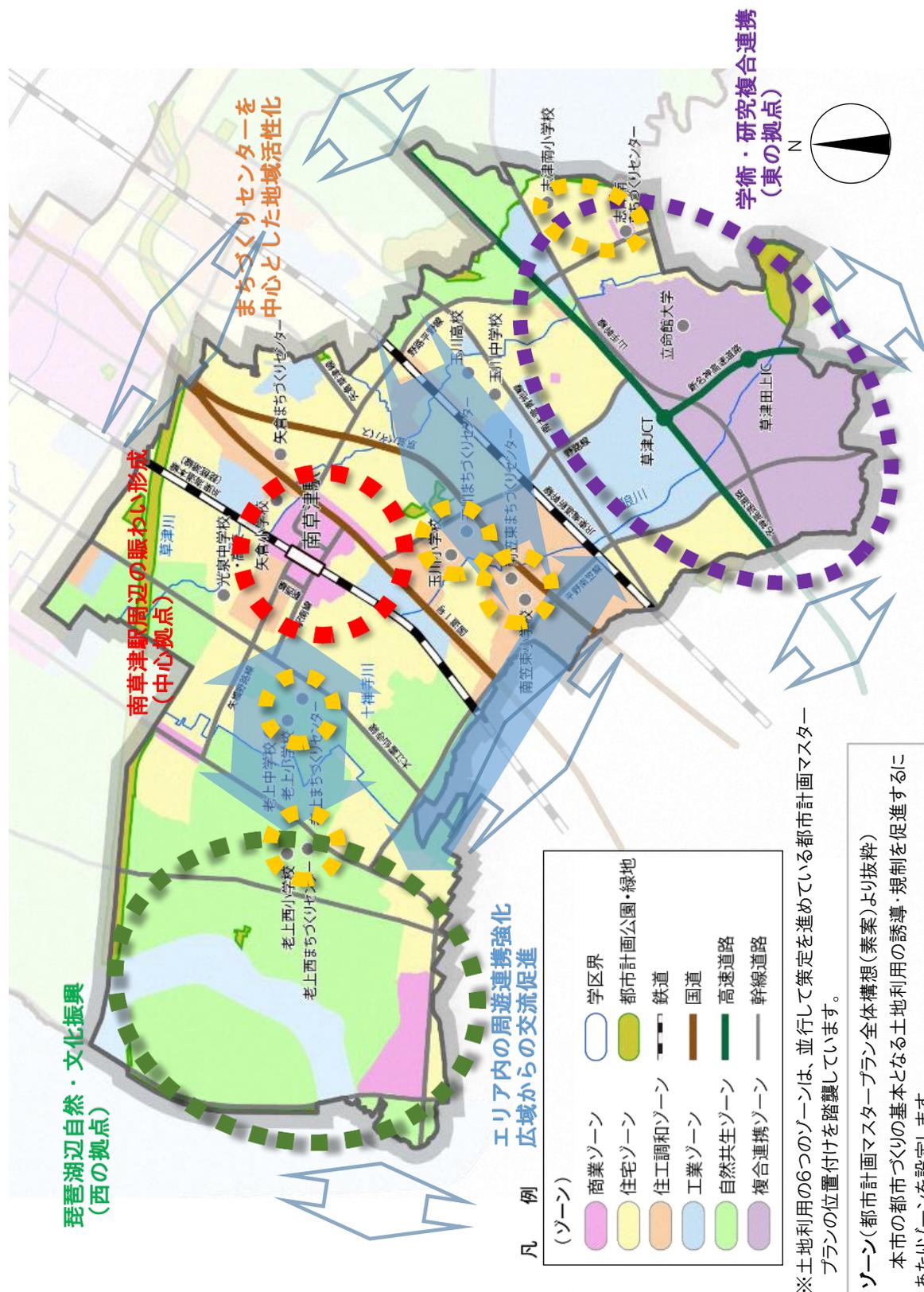


図 3-1 ゾーニング図



## 第 4 章

### 施策

## 4-1 施策

南草津エリアにおいて推進する施策を以下に示します。

### 「基本方針① 大学や企業等の立地集積を生かした産官学連携による魅力あるまちづくりの促進」における施策

#### ア. 立命館大学等の大学・企業等の地域に開かれた利活用の促進

- ・ 立命館大学等の大学・企業等における交流プログラム等の地域住民等による利活用の促進
- ・ びわこ文化公園都市内の各施設の連携による防災拠点化の検討
- ・ 立命館大学等における、産・官・学の連携による研究開発施設の誘導

対象のゾーニング

東の  
拠点

#### イ. 通勤・通学等の利便性向上

- ・ 社会実験の結果と、関係機関や関係事業者、地域等との協議を踏まえた、通勤・通学の利便性向上

対象のゾーニング

連携  
交流

#### ウ. 大学、企業等との連携による地域活動・交流の促進

- ・ JR南草津駅周辺や地域まちづくりセンター、教育機関などにおける大学・企業等の地域活動・交流プログラムの実施支援
- ・ 大学・企業等と地域・教育機関等の連携を図る窓口機能の強化

対象のゾーニング

中心  
拠点

東の  
拠点

地域  
活性化

#### エ. 幹線道路沿道における産業振興に寄与する土地利用の推進

- ・ 山手幹線などの幹線道路沿道における、用途・容積率の緩和などの検討と、滋賀県の南の玄関口としての地理的優位性を生かした産業振興のための土地利用の推進

対象のゾーニング

東の  
拠点

## オ. 市街化調整区域における土地活用の検討

- ・ 市街化調整区域における、地区計画などによる土地活用の検討

対象のゾーニング

東の  
拠点

西の  
拠点

## 「基本方針② 豊かな地域資源を生かした安全で快適な住環境の形成と地域主体によるまちづくりの推進」における施策

### ア. 立地適正化計画に基づく居住誘導と利便性の高い住環境の形成

- ・ 立地適正化計画に基づく居住の誘導と歩いて暮らせる利便性の高い住環境の形成に向けた土地利用の推進

対象のゾーニング

地域  
活性化

### イ. 空き家の適正管理と有効活用の促進

- ・ 草津市空き家等対策計画に基づく防災・衛生・景観等の生活環境に悪影響を及ぼす空き家等の中古住宅市場への流動化促進

対象のゾーニング

地域  
活性化

### ウ. 特定区域における計画的な土地利用の誘導

- ・ 都市計画法第34条11号の規定に基づく特定区域における、計画的な土地利用の誘導

対象のゾーニング

地域  
活性化

### エ. 建築協定・緑地協定等による質の高い住環境の形成

- ・ 住環境の質の向上に向けた市民との協働による建築協定・緑地協定等の締結

対象のゾーニング

地域  
活性化

### オ. 河川改修の促進や避難環境の向上による防災まちづくりの推進

- ・ 県と連携した河川改修や雨水幹線の整備の推進
- ・ 地域防災計画に基づく避難所となる防災公園や指定避難所である小・中・高校等のグラウンドのオープンスペースの確保と、誰もが利用しやすい避難所としての公共施設のバリアフリー化等の環境整備

対象のゾーニング

地域  
活性化

### カ. 地域まちづくりセンターの更新と地域再生拠点の形成

- ・ 玉川、老上、矢倉学区の地域まちづくりセンターの更新の検討
- ・ 地域まちづくりセンターを中心とした、草津市版地域再生計画に基づく居住の利便性確保に向けた拠点の形成と地域コミュニティの維持
- ・ 学区内での移動とまちなかへの移動を円滑につなぐサイクル&バスライドの実施に向けた駐輪場整備等の検討
- ・ 草津市版地域再生計画に基づく各学区のまちづくりプランの策定支援

対象のゾーニング

地域  
活性化

連携  
交流

### キ. 歴史・文化資源の活用促進

- ・ 野路公園の整備と合わせた、瀬田丘陵生産遺跡群 野路小野山製鉄遺跡の保存・活用
- ・ 草津市文化財保存活用地域計画等に基づく周遊ルートの検討

対象のゾーニング

地域  
活性化

連携  
交流

### ク. 琵琶湖の資源を活用した地域振興、観光事業の推進

- ・ 琵琶湖の湖辺域における資源を活用した持続可能な地域振興や観光振興の推進
- ・ 県および関係市と連携したピワイチ観光事業の推進

対象のゾーニング

西の  
拠点

## ケ. 琵琶湖岸、草津川、十禅寺川・狼川における親水空間形成

- ・ 連続性のある水とみどりの軸(琵琶湖岸、草津川、十禅寺川、狼川)の保全・活用

対象のゾーニング

西の  
拠点

連携  
交流

## コ. 田園環境の保全と農業資源を生かした交流促進

- ・ 農業振興地域整備計画に基づく優良農用地の保全と、農地や農産物を生かした交流プログラムの実施支援

対象のゾーニング

中心  
拠点

西の  
拠点

## 「基本方針③ JR南草津駅周辺やびわこ文化公園都市周辺における拠点性の強化と適切な都市機能の配置の推進」における施策

### ア. 立地適正化計画における都市機能誘導施設の立地誘導

- ・ 立地適正化計画に基づいた、JR南草津駅周辺における商業、医療・福祉、教育施設等の都市機能誘導施設の立地誘導の促進

対象のゾーニング

中心  
拠点

### イ. JR南草津駅周辺における魅力ある滞留・交流空間の創出

- ・ JR南草津駅東口におけるにぎわいの創出に向けた、官民連携による土地利用の高度化の検討
- ・ フェリエ南草津における、施設の将来像と幅広い視点からの活用方法の検討
- ・ アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)、ミナクサ☆ひろばなどの公共公益施設における活用促進
- ・ 東山道記念公園における第3次草津しみどりの基本計画に基づいたPark-PFIの導入による民間活力の活用の検討
- ・ 東山道記念公園と連携したJR南草津駅西口ロータリーにおける民間活力の活用の検討

対象のゾーニング

中心  
拠点

#### ウ. JR南草津駅周辺におけるウォークアブルなまちづくりの推進

- ・ まちなかの回遊性向上や公共交通の利用環境改善に向けた駅前広場の機能強化
- ・ JR南草津駅から周辺の公共公益施設や各学区へのアクセシ性・安全性の向上

対象のゾーニング

中心  
拠点

連携  
交流

#### エ. バリアフリー化事業の推進

- ・ 草津市バリアフリー基本構想に基づくJR南草津駅周辺における重点的なバリアフリー化事業の推進

対象のゾーニング

中心  
拠点

連携  
交流

#### オ. 自転車ネットワーク計画の推進

- ・ JR南草津駅およびその周辺の利便性向上のための、JR南草津駅西口における駐輪場の確保
- ・ 自転車ネットワーク計画による連続性のある安全・安心な自転車走行空間の整備

対象のゾーニング

中心  
拠点

連携  
交流

#### カ. JR南草津駅周辺におけるまちなみ形成と情報発信機能の強化

- ・ JR南草津駅周辺における、南草津エリアの顔となるまちなみ形成やイメージづくりと、南草津エリアの情報発信機能の強化

対象のゾーニング

中心  
拠点

#### キ. 草津パーキングエリアと連携したびわこ文化公園都市周辺エリアの活性化

- ・ 草津PAと連携したびわこ文化公園都市周辺エリアの活性化に向けた路線バスや高速バス等の交通結節機能の強化、地域振興施設の設置によるにぎわいの創出、周辺施設と連携した防災拠点の形成などの可能性検討

対象のゾーニング

東の  
拠点

連携  
交流

### ク. 都市計画道路山手幹線の整備促進

- ・ 都市間連携の強化や新たな価値向上に寄与する都市計画道路山手幹線の整備の促進

対象のゾーニング

連携  
交流

### ケ. 未着手都市計画道路の早期実現

- ・ 都市計画道路平野南笠線における、早期実現に向けた県に対する継続要望
- ・ 都市計画道路大江霊仙寺線における、大津市と協議による大津市域までの  
接続検討

対象のゾーニング

連携  
交流

### コ. 地域や関係事業者と連携した円滑な交通ネットワークの確保

- ・ 草津市地域公共交通網形成計画に基づく関係事業者と連携した円滑なバス交通ネットワークの確保
- ・ 地域や事業者と連携したコミュニティバス(まめバス)の路線改編等の検討
- ・ バス交通空白地等での移動手手段の確保に向けた、デマンド型交通や Maas 等の活用の検討

対象のゾーニング

連携  
交流

### サ. 未整備公園の整備や活用促進

- ・ 野路公園における、市民参加による公園機能の検討・整備
- ・ ロクハ公園における、地域の意向を踏まえた利活用方法の検討と機能更新
- ・ 都市公園等の緑のある空間を活用した健康づくり拠点の形成

対象のゾーニング

地域  
活性化

4-2 施策の体系

南草津エリア  
の課題

① 大学や企業等の集積や地理的優位性を生かした活力あるまちづくりが必要

② 誰もが安心して住み続けられる住環境の向上と地域の活性化が必要

③ 魅力的な都市空間の形成や地域資源の活用による多様な交流活動の促進が必要

④ 総合的な道路網の整備や交通体系の見直しが必要



あふれる活力と暮らしやすい環境が共生し、多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち「みなくさ」

南草津エリアの将来像・目標

目標①  
大学・企業・地域の活力が持続的にあふれだすまち

目標②  
誰もが豊かな環境と利便性を享受し安心・安全に住み続けられるまち

目標③  
充実した都市空間・交通環境で多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち

基本方針

活力  
①大学や企業等の立地集積を生かした産官学連携による魅力あるまちづくりの推進

住環境  
②豊かな地域資源を生かした安全で快適な住環境の形成と地域主体によるまちづくりの推進

交流  
③JR南草津駅周辺やびわこ文化都市公園周辺における拠点性の強化と適切な都市機能の配置の推進

施策	ゾーニング
ア.立命館大学等の大学・企業等の地域に開かれた利活用の促進	東の拠点
イ.通勤・通学等の利便性向上	連携拠点
ウ.大学、企業等との連携による地域活動・交流の促進	中心拠点 東の拠点 地域活性化
エ.幹線道路沿道における産業振興に寄与する土地利用の推進	東の拠点
オ.市街化調整区域における土地活用の検討	西の拠点 東の拠点
ア.立地適正化計画に基づく居住誘導と利便性の高い住環境の形成	地域活性化
イ.空き家の適正管理と有効活用の促進	地域活性化
ウ.特定区域における計画的な土地利用の誘導	地域活性化
エ.建築協定・緑地協定等による質の高い住環境の形成	地域活性化
オ.河川改修の促進や避難環境の向上による防災まちづくりの推進	地域活性化
カ.地域まちづくりセンターの更新と地域再生拠点の形成	地域活性化 連携拠点
キ.歴史・文化資源の活用促進	地域活性化 連携拠点
ク.琵琶湖の資源を活用した地域振興、観光事業の推進	西の拠点
ケ.琵琶湖岸、草津川、十禅寺川・狼川における親水空間形成	西の拠点 連携拠点
コ.田園環境の保全と農業資源を生かした交流促進	中心拠点 西の拠点
ア.立地適正化計画における都市機能誘導施設の立地誘導	中心拠点
イ.ＪＲ南草津駅周辺における魅力ある滞留・交流空間の創出	中心拠点
ウ.ＪＲ南草津駅周辺におけるウォーカブルなまちづくりの推進	中心拠点 連携拠点
エ.バリアフリー化事業の推進	中心拠点 連携拠点
オ.自転車ネットワーク計画の推進	中心拠点 連携拠点
カ.ＪＲ南草津駅周辺におけるまちなみ形成と情報発信機能の強化	中心拠点
キ.草津パーキングエリアと連携したびわこ文化公園都市周辺エリアの活性化	東の拠点 連携拠点
ク.都市計画道路山手幹線の整備促進	連携拠点
ケ.未着手都市計画道路の早期実現	連携拠点
コ.地域や関係事業者と連携した円滑な交通ネットワークの確保	連携拠点
サ.未整備公園の整備や活用促進	地域活性化



## 第5章

# ビジョンの実現に向けて

## 5-1 推進体制

本ビジョンに基づき各施策を推進していく中で、南草津エリアのまちづくりにおいて波及効果が高く、早期に実現可能と考えられる施策を重点連携施策として位置付け、南草津エリアのまちづくりを進める上での契機としていきます。

「JR南草津駅周辺のにぎわい形成(中心拠点)」、「学術・研究複合連携(東の拠点)」、「琵琶湖辺自然・文化振興(西の拠点)」、「地域まちづくりセンターを中心とした地域活性化」、「エリア内の連携強化、広域からの交流促進」のゾーニングごとにおけるプロジェクトの推進体制イメージを、以下のとおり示します。プロジェクトを実施に向けた研究会やプロジェクトの推進体制を構築し、大学・企業、地域、関係団体および行政などの連携体制のもと重点連携施策に取り組み、南草津エリアのまちづくりを進めていくことを目指します。

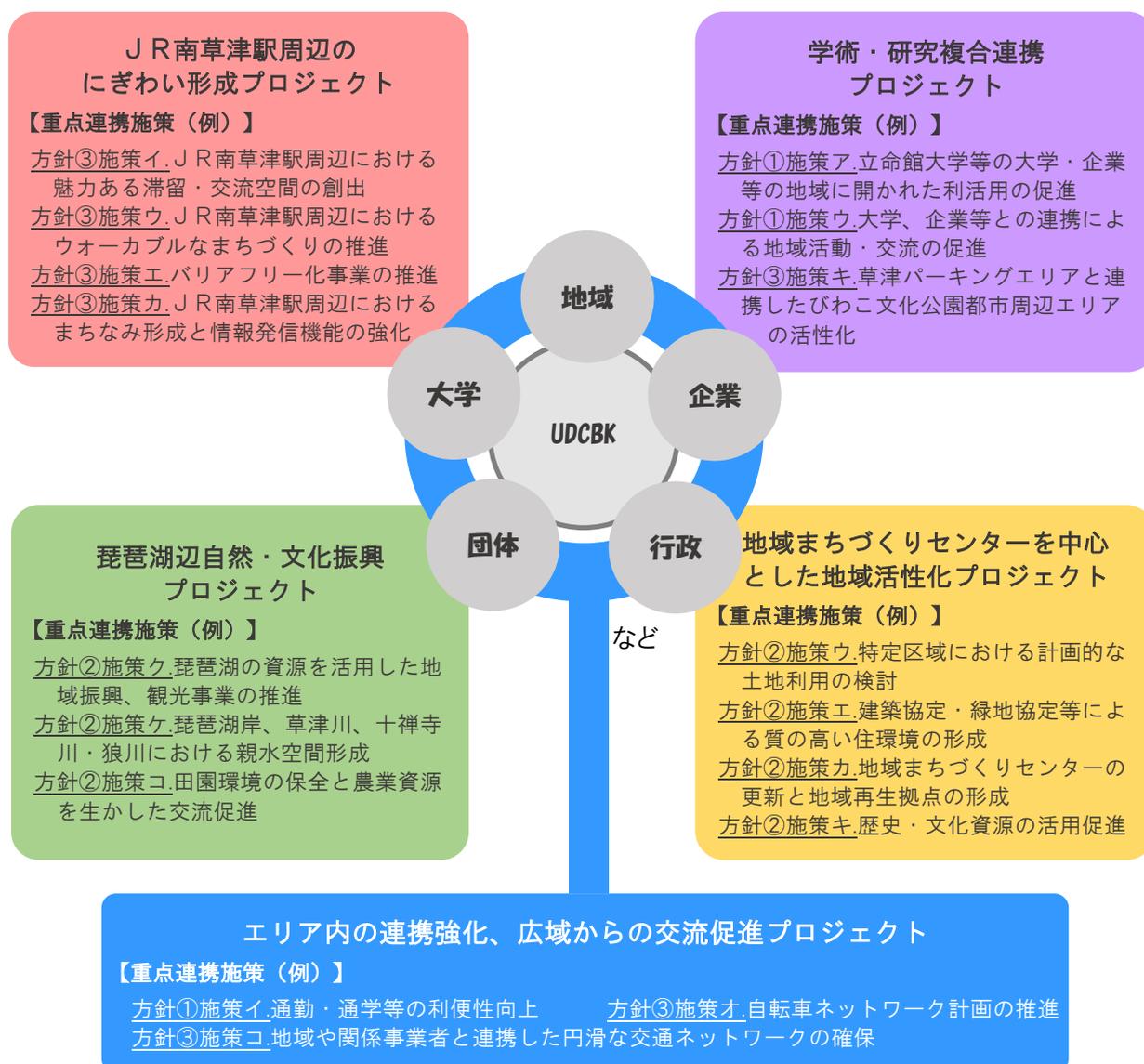


図 5-1 プロジェクト体制

## 5-2 ビジョンの見直しについて

本ビジョンの推進にあたっては、各施策に基づく事業やプロジェクトの進捗状況を把握するとともに、社会情勢や南草津エリアの変化に対応していく必要があります。

今後は、まちづくりの進捗状況などを勘案し、概ね本ビジョンの中間年次となる5年程度を基本としたPDCAサイクルを取り入れ、ビジョンの見直しを検討していきます。

なお、ビジョンの見直し検討においては、大学・企業、地域、関係団体等と連携しながら取り組めます。



図 5-2 PDCA サイクル

